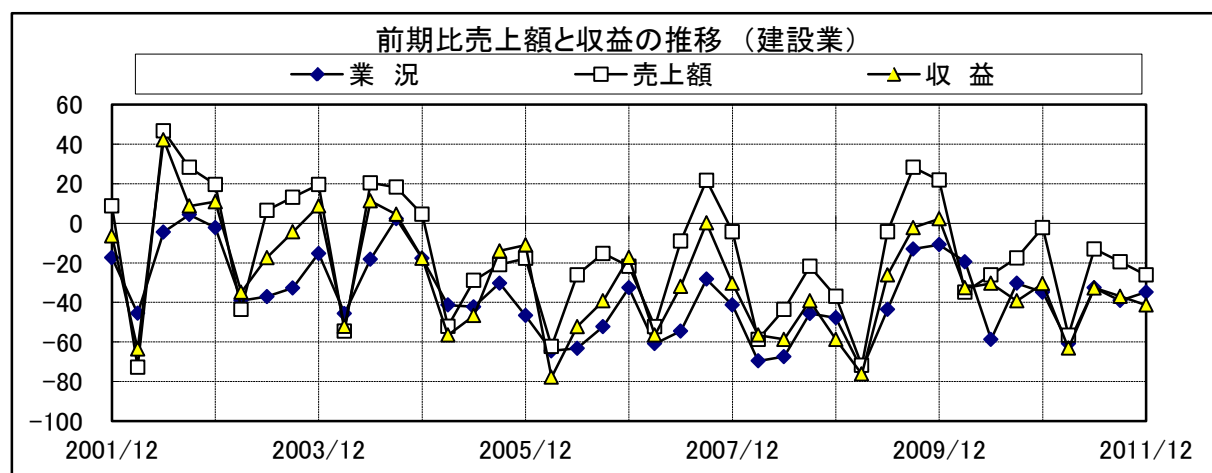


建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-32.6	-39.1	-34.8	-49.9
売上額	-13.0	-19.5	-26.2	-52.2
収 益	-32.7	-36.9	-41.3	-54.4

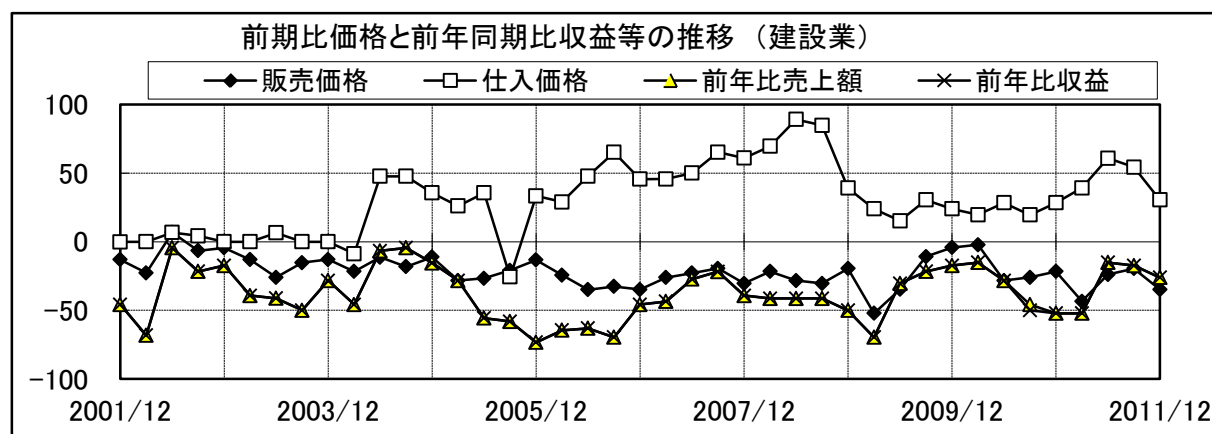
今期の業況判断DIは△34.8と、前期比マイナス幅が縮小し4.3ポイント改善した。地区別にみると、静内、浦河、えりも地区で改善し、三石、広尾地区で悪化している。様子地区は横ばいで推移した。売上額、収益判断DIは、売上額が△26.2、収益が△41.3と、前期比それぞれマイナス幅が拡大し、6.5、4.4ポイント悪化した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
請負価格	-23.9	-19.6	-34.8	-34.8
仕入価格	60.8	54.3	30.4	26.0

請負価格判断DI(△34.8)は、前期比マイナス幅が15.2ポイント拡大し、価格低下基調を強めている。仕入価格判断DI(30.4)は、前期比プラス幅が23.9ポイント縮小し、価格上昇基調を弱めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-30.4	-10.9	-17.4	-39.2
人手状況	4.3	8.7	-10.9	10.8

残業時間判断DIは△17.4と、前期比残業時間が減少したとする企業割合が6.5ポイント増加した。

人手過不足判断DIは△10.9と、前期比マイナス値に転じ、人手不足感を強めている。

□ 設備投資の動き

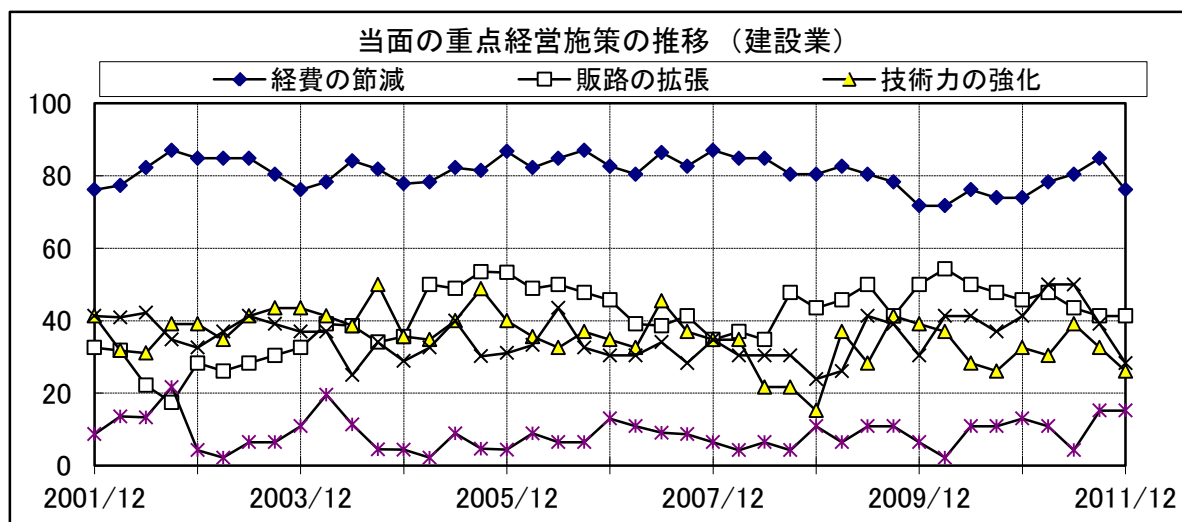
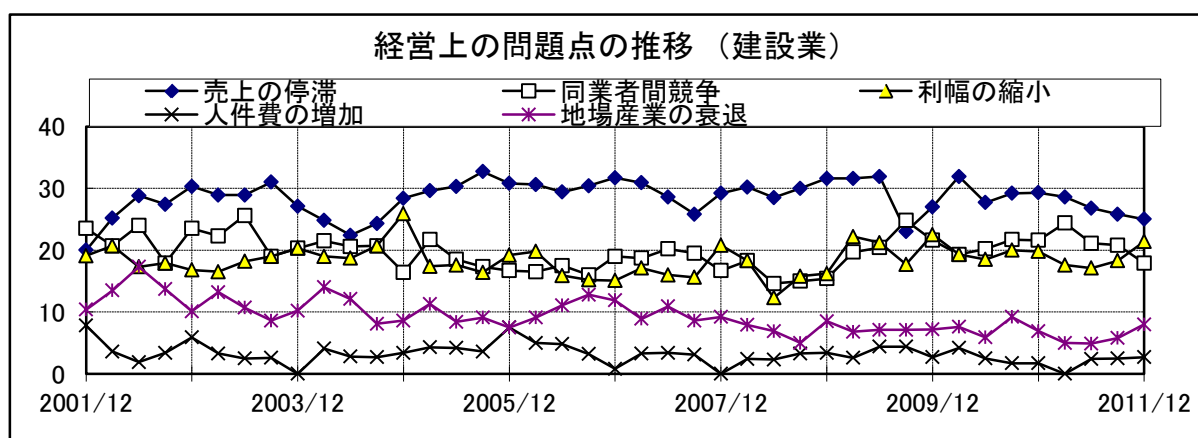
設備投資の充足感を示すD Iは△10.9と、前期（2.1）比13.0ポイント下降。適正と回答した企業は76.1%と、前期（80.5%）から4.4ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は23.9%と、前期（21.7%）比2.2ポイント上昇、件数で前期の10社に対し11社の実施となった。来期の新規の設備は、当期比1社減の10社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」をトップに挙げ25.0%、次いで「利幅の縮小」21.4%、「同業者間との競合」17.9%、「地場産業の衰退」8.0%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ76.1%、次いで「販路を拡げる」41.3%、「情報力の強化」28.3%、「技術力を高める」26.1%、「人材を確保する」15.2%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期（平成24年1～3月期）の予想業況判断D Iは△49.9と、今期（△34.8）実績比15.1ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、今期実績比売上額が△52.2（今期△26.2）、収益が△54.4（今期△41.3）と、それぞれマイナス幅が拡大し26.0、13.1ポイントの悪化を見通している。

予想請負、予想仕入価格判断D Iは、請負価格が△34.8（今期△34.8）と横ばいで、仕入価格は26.0（今期30.4）と4.4ポイント低下し、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

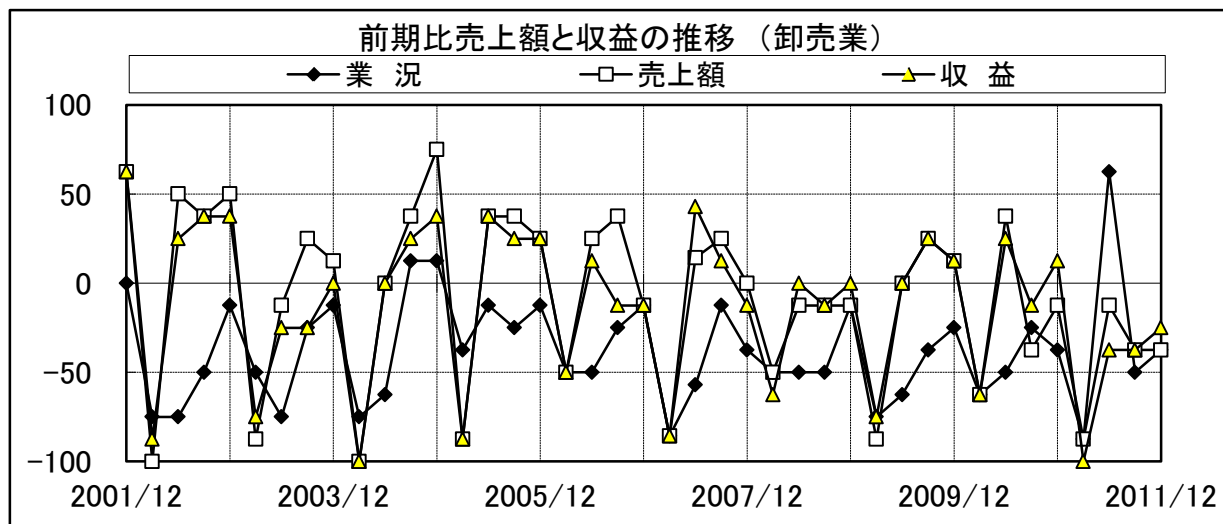
卸売業 8 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-62.5	-50.0	-37.5	-87.5
売上額	-12.5	-37.5	-37.5	-100.0
収 益	-37.5	-37.5	-25.0	-87.5

今期の業況判断DIは△37.5と、前期比マイナス幅が縮小し、12.5ポイントの改善となった。地区別にみると、三石地区のみ改善、浦河、静内、様似地区は横ばいとなっている。

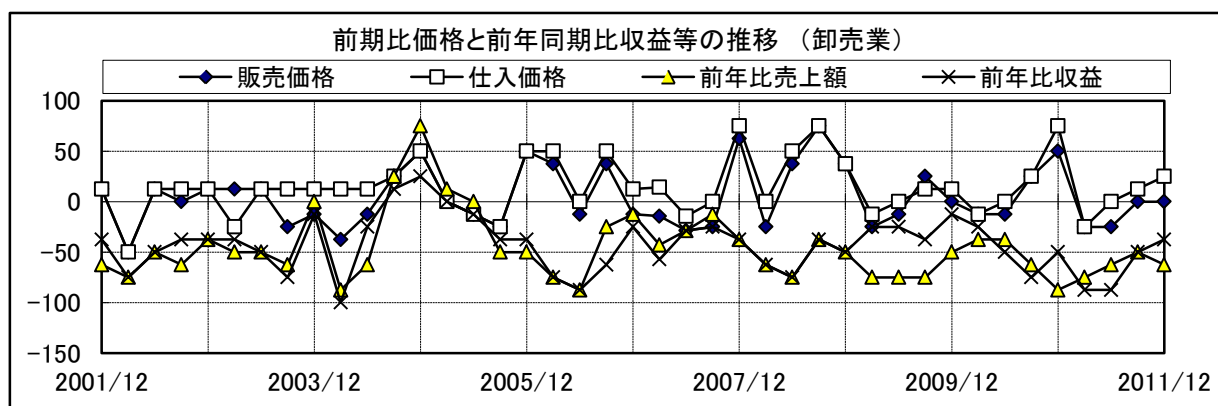
売上額、収益判断DIは、売上額は△37.5で横ばいで推移、収益は△25.0で前期比12.5ポイント改善した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
販売価格	-25.0	0.0	0.0	-25.0
仕入価格	0.0	12.5	25.0	0.0

販売価格判断DI(0.0)は、前期比横ばいで推移。仕入価格判断DI(25.0)は、前期比12.5ポイント上昇し、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、販売価格は総じて横ばい、仕入価格では農林・水産で上昇、食品で下降している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-12.5	-25.0	-12.5	-50.0
人手状況	37.5	25.0	12.5	0.0

残業時間判断DIは△12.5と、前期比マイナス幅が12.5ポイント縮小し残業時間が減少したとする企業割合が減少した。

人手過不足判断DIは12.5と、前期比プラス幅が縮小し12.5ポイント低下するも、依然人手過剰感が続いている。

□ 設備投資の動き

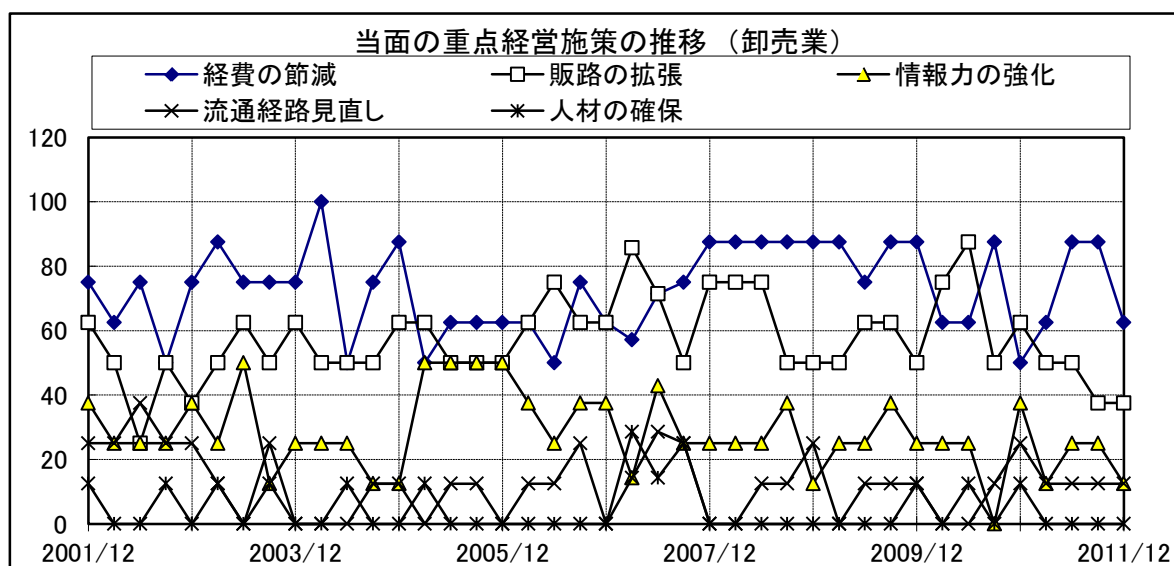
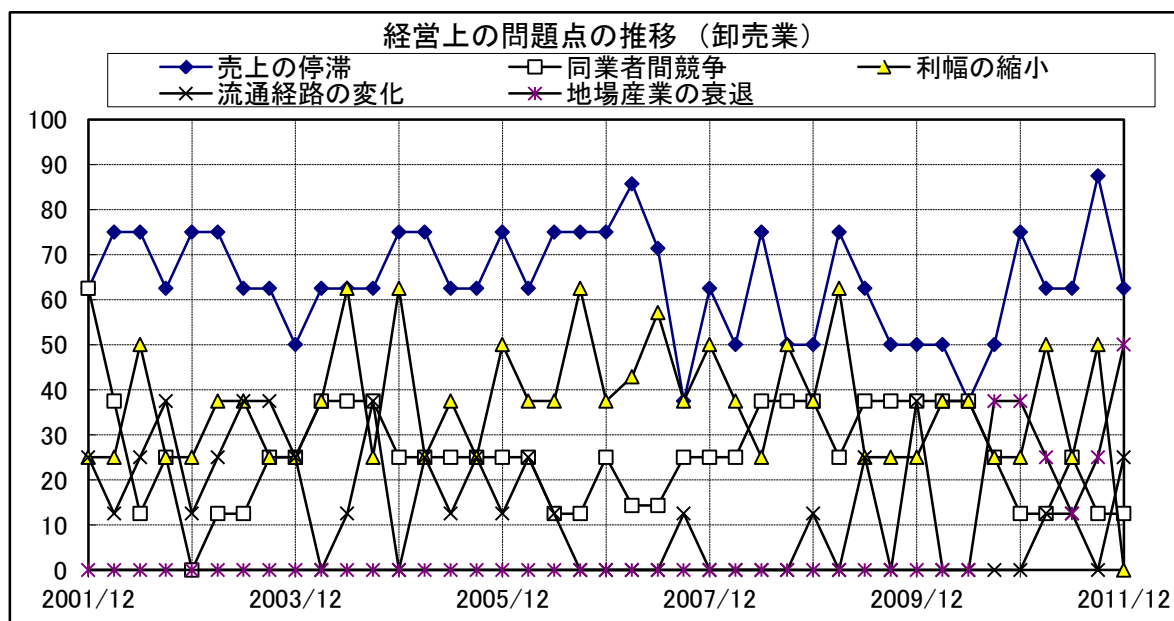
設備投資の充足感を示すD Iは12.5で、前期(12.5)比横ばいとなっている。適正と回答した企業も87.5%と、前期(87.5%)比横ばいの値となった。

設備投資実施企業割合は12.5%と前期(50.0%)比37.5ポイント下降、件数で前期4社の実施に対し1社となった。来期の新規の設備は、当期と同数の1社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」62.5%、「地場産業の衰退」50.0%、「取引先の減少」37.5%、「流通経路変化による競争の激化」25.0%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ62.5%、次いで「販路を広げる」37.5%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期（平成24年1～3月期）の予想業況判断D Iは△87.5と、今期（△37.5）実績比50.0ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が△100.0（今期△37.5）、収益が△87.5（今期△25.0）と、今期実績比それぞれマイナス値が拡大し、大幅に悪化の見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D Iは、販売価格が△25.0（今期0.0）と価格低下基調となり、仕入価格は価格上昇基調からゼロ水準（今期25.0）の見通しとなっている。